

# 「一人暮らしにはどのくらいお金がかかるの？」

— 家計への関心を高め消費生活への基礎を固める —

東京都東大和市立第一中学校主幹 熊井久乃

事例の位置付け	実施学年	第3学年
	教科等	家庭科 選択
	単元名	

## ねらい

- 1 家庭の経済について関心をもち、自立した生活を送るための基礎とさせる。
- 2 自分の成長とのかかわりのなかで、家庭生活における消費の重要性に気づかせる（教育費の大きさについて考えさせる。同時に家族とのかかわりについて考えさせる）。
- 3 環境に配慮した消費生活を送るための工夫をし、実践できるようにする。

## 展開の特色

- 1 第3学年（選択）に位置づけることで、自立した生活に魅力を感じたり関心をもったりする時期に、「一人暮らし」というキーワードから、学習への興味・関心を高めるように工夫した。
- 2 一人暮らしの支出と関連させ、中学生のいる家庭において教育費のしめる割合に気づき、自分の生活や支えてくれている家族について見つめ直す機会とする。
- 3 学習を一つのユニット（学習のまとまり）として弾力的に時間を活用できるようにした。
- 4 課題解決的な学習やグループ学習、調査活動など学習の形態や方法を工夫することで、学習したことが定着できるようにした。

## 構成

- ・ 5～7時間をユニット（学習のまとまり）として扱い、指導計画・地域・生徒の実態にあわせ、指導する内容と時間を設定できる。
- ・ 学習のまとまりごとに必要に応じて切り取った形での学習を進めることができる（例、ユニット2からでも学習を始めることができる）。

- ユニット1 一人暮らしをするにはどのようなお金が必要か。「何にどのくらいお金がかかるの？」（3～5時間）
- ユニット2 一人暮らしと中学生のいる世帯の支出状況を比較する。（1～2時間）
- ユニット3 環境に配慮した消費生活を送る。「節約した暮らし方を考えよう」（1～2時間）

## 事前の準備

- ・ 生活の自立に必要な要素について話し合う機会を設定する。
- ・ 進学、就職等で「一人暮らし」をすることを想定し、どのような暮らしをするかまとめさせる。
- ・ 1DKの平面図を活用し、具体的な暮らしを考えさせる。

学習内容・活動	
学習の流れ	ユニット1 展開例 一人暮らしするにはどのようなお金が必要か 「何にどのくらいお金がかかるの？」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活に必要な費目をあげる。</li> <li>・ 付箋に自由に書き、発表する。</li> <li>・ それぞれの項目をまとめ、費目として整理する。</li> <li>・ 実際にはどのくらいの経費がかかるのかを予想してみる。</li> <li>・ 実際にどのくらいの費用がかかるのかを調べる方法について検討する。</li> </ul>
	実際の費用について、調べてみよう「調査活動を始めよう」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さまざまな方法で調べてみる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 資料・データを活用する。 折り込み広告・インターネット情報</li> <li>② 調査活動に出る。 不動産屋の掲示や広告を見る。役所等を訪問する。</li> <li>③ 電話や家の人からの聞き取りなど</li> </ol> </li> <li>・ 直接聞き取りをする場合のマナー等について確認する。</li> </ul>

[評価の観点], ○教師の支援	資料
[自分の考えを意欲的に発表できているか。] 【関心・意欲・態度】  ○費用のみが記入されている表を提示する。 [実生活と結びつけ、現実的に考えようとしているか。] 【創意・工夫】 [具体的で可能な方法を考えることができたか。] 【創意・工夫】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付箋紙</li> <li>・ KJ法*</li> </ul>
[調査により、情報を得ることができる。] 【技能】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット</li> <li>・ 実際の聞き取り調査</li> </ul>

memo・注

\*KJ法とは、川喜田二郎氏によって考案された発想法で、カードを使用して情報の管理や整理などを行う方法。

ガイドブックの利用にあたって

生活設計・家計管理

金融や経済のしくみ

消費者保護・トラブル未然防止

キャリア教育

ガイドブックの利用にあたって

生活設計・家計管理

金融や経済のしくみ

消費者保護・トラブル未然防止

キャリア教育

学習内容・活動	
学習の流れ	<p>調べたことをまとめ、発表しよう。「何にどのくらいかかるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことをわかりやすくまとめ、発表する。</li> <li>発表を聞いたりすることで、共有の学習の場とする。</li> <li>生活する上で必要な費目や経費について確認する。</li> </ul>
	<p>ユニット2 中学生がいる世帯と一人暮らしの世帯の支出状況について比較してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生がいる世帯の支出状況と一人暮らしの世帯の支出状況について比較し、違いを見つけよう。</li> <li>子どもを養育するために必要な経費があることに気づく。</li> <li>自分の生活を支えている収入源は、何によるものか考える。</li> <li>自分の成長が、家計に支えられていることに気づく。</li> <li>家計の収入には、限りがあることを知る。</li> </ul>
	<p>ユニット3 家計の支出をどのような方法で節約できるか考えよう。「節約した生活を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活していく上で確実に必要な項目は何だろうか、節約できる項目は、ないか考えよう。</li> <li>環境に配慮した消費生活をおくるための工夫について考え、話し合ってみよう。</li> <li>各グループごとに話しあったことを発表する。</li> <li>発表を聞き、学習を共有しあう。</li> </ul>

[評価の観点], ○教師の支援	資料
<p>[調べたことをまとめわかりやすく発表できたか。] 【創意・工夫、技能】 ○それぞれの発表を聞き、共有の学習とするよう助言する。 [家計の費目や経費について知ることができたか。] 【知識・理解】</p> <p>[教育費の支出のウエイトが大きいことに気がつくことができたか。] ○自分の生活と関連させて考える。 【関心・意欲・態度】 [自分の生活が、家族の労働により支えられていることを理解する。] 【知識・理解】 ○収入の種類について助言する。 ○限られた予算のなかで生活していることに気づかせる。</p> <p>[節約した生活と環境に配慮した生活の大切さに気づくことができたか。] 【関心・意欲・態度】</p> <p>[実際の生活に生かそうとする態度を身につけることができたか。] 【技能】 [自分なりに工夫した生活を送ろうとしているか。] 【創意・工夫】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模造紙</li> <li>コンピュータによるプレゼンテーション</li> <li>評価表</li> <li>総務省「家計調査」より</li> <li>付箋</li> <li>KJ法</li> <li>評価表</li> </ul>

本時の展開

- 本時の目標
- 1 家庭の経済に関心を持ち、生活するために必要な費目や経費について理解する。
  - 2 情報を得る方法を検討し、調査することができる。
  - 3 調べたことをわかりやすく発表することができる。

	学習内容	学習活動
導入	<p>何にどのくらいお金がかかるのだろう。</p> <p>① 生活に必要な費目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で生活をするとした場合、どのような種類の支出があるのか考え、付箋に書く。</li> <li>各自の考えを発表し、同じような意見をまとめる。</li> <li>生活に必要な費目を確認する。</li> </ul>
	<p>② 仮説をたてよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一ヶ月間を生活するのにどのくらいの費用がかかるのか、予想を立てる。</li> <li>仮の家計簿を記入する。</li> </ul>
展開	<p>③ 現実的な経費について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような方法で調べたらよいか、考えよう(話し合う)。</li> <li>具体的な調査の方法について検討する。</li> </ul>
	<p>④ まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の時間に調査をするために必要な資料等を確認する。</li> </ul>

[評価の観点], ○教師の支援	資料
<p>○思いつく項目を自由に付箋に書くように指示する。 ○同じような項目ごとにまとめるように助言する。 [自分の意見を意欲的に発表しようとしているか。] 【関心・意欲・態度】 ○費目のみが記入されている表を配布する。</p> <p>[実生活と結びつけて、現実的に考えようとしているか。] 【創意・工夫】</p> <p>○具体的な資料を提示し、調べる糸口とさせる。 ○光熱水道費の調べ方の根拠について助言する。 ○教師の家庭の資料等を提示する。 [具体的で可能な方法を考えることができたか。] 【技能】</p> <p>○本時のまとめと、次時には、調査活動を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>KJ法・付箋紙</li> <li>ワークシート (→ p.111)</li> <li>実際のデータ</li> <li>パンフレット</li> <li>チラシ</li> </ul>

